



教育目標

 やさしい心をもつ子ども
 自ら学ぶ子ども
 たくましい子ども

 学校HP
 QR
 コード


手宮中央

発祥から90年目の雪まつり

校長 小寺 友興

先々週2月14日（金）に、今年度の雪まつりを実施しました。実施するにあたって、2月8日（土）、9日（日）の2日間、今年も雪まつり保存会が中心となり、「ドラえもん」の雪像を作る作業を行っていただきました。雪まつり保存会の方々、保護者、児童、教職員合わせて各日40名程で雪像づくりを行い、高さおよそ5m、しかも4コースの滑り台付きの見事な「ドラえもん」が完成しました。14日（金）の雪まつり当日は、午後の授業で低学年と高学年に分かれてグラウンドでの雪中遊びを行ったあと、放課後には、PTAの方々が準備してくださった宝探しやそり遊びなどを子どもたちは楽しみ、最後はスノーキャンドルを点灯して終了しました。



雪まつり当日に来校し、歓声を上げながらそり滑りを楽しんでいる子どもたちの様子を見ていた雪まつり保存会の方から、「今の子どもたちは、冬の間を外で遊ぶ機会があまりないのではないのかもしれないですね。」というお話をいただきました。私が子どもだった頃は、外で遊ぶことが楽しみでした。寒さの厳しい冬でも、家の周りや空き地でそりやミニスキーで遊んだり、雪像やかまくらを作って遊んだりしていました。よく考えてみると、今の子どもたちは、春から秋にかけては、近くの公園で遊んでいる様子は見られますが、冬の間は、その公園も雪で閉ざされ、外で雪遊びをする様子はあまり見られません。家の近所に安全に遊べる場所がなかったり、また、携帯電話やテレビゲームなどが普及し屋内でも楽しい遊びができるようになったりしたことが、その要因として考えられます。だからこそ、今年の雪まつりでも、子どもたちがそり遊びなどを純粋に楽しみ、無邪気な笑顔をたくさん見せてくれたのだと思います。

雪まつりは、旧北手宮小学校で戦前から行われていた行事を、統合した本校が引き継いだものです。当時の高山喜市郎校長先生が提唱し、第1回の雪まつりが行われたのが1935年（昭和10年）。それから90年経った今年の冬も、地域の皆様の多大なるご協力のおかげで、本校の子どもたちが雪まつりを楽しめたことに、改めて感謝の思いを強くしているところです。

事前の雪像づくり作業をはじめ、当日のお手伝いなど、今回の雪まつりにご協力いただいた雪まつり保存会の皆様をはじめとした地域の皆様、PTAの皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

3月の主な行事予定

3日	児童朝会 6年非行防止教室 放課後学習会4～6年	12日	B日課 フッ化物洗口 佐々木スクールカウンセラー来校日
4日	6年生を送る会 学校運営協議会	14日	放課後学習会1～3年 卒業式全体練習
5日	B日課 フッ化物洗口 佐々木スクールカウンセラー来校日	17日	卒業式総練習 放課後学習会4～6年
6日	2年中央バス体験教室	18日	卒業式全体練習・前日準備
7日	B日課 放課後学習会1～3年	19日	第9回卒業式
10日	月曜日課 4時間授業 全校朝会 放課後学習会4～6年	20日	春分の日（祝日）
11日	B日課 PTA評議員会	21日	大掃除 入学式練習 放課後学習会1～3年
		24日	B日課 3時間授業 修了式・離任式
		25日	学年末・学年始休業（4月6日まで）

ありがとうの花をさかせよう

本校の本田養護教諭が、「ありがとうの花をさかせよう」という取組を子どもたちに呼びかけました。「自分がされてうれしかったこと」「だれかへの『ありがとう』の気持ち」などを花型のメッセージカードに書いてほしいと子どもたちに呼びかけたところ、短期間でたくさんのメッセージが寄せられました。

6年生に対して、「いつもやさしくしてくれてありがとう」「いろいろなことを教えてくれてありがとう」「高学年らしくてかっこよかったです」「中学校にいてもがんばってください」という下学年からの思いや、お友達同士で「いつもあそんでくれてありがとう」「いつもはげましてくれてありがとう」というお互いへの感謝の思い、6年生が卒業に当たって「6年間ありがとう」と、小学校生活を同じ学級で過ごした仲間たちに対しての感謝の気持ちなどを子どもたちがたくさん書いてくれました。

温かい言葉に包まれて、校舎が春を感じさせるほんのりとした陽気に包まれています。



まだ何も咲いていなかった木が…



あっという間に「ありがとうの花」で満開に！

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

このたび、全国の5年生児童を対象として1学期に実施した調査（新体力テスト）の結果がスポーツ庁から届きましたので、本校の結果（概要）をお知らせします。



〔体力・運動能力〕

男子は「長座体前屈（柔軟性）」「反復横跳び（敏捷性）」「20mシャトルラン（全身持久力）」で全国平均を上回りました。「握力（筋力）」「上体起こし（筋パワー・筋持久力）」「50m走（疾走能力）」「立ち幅跳び（筋パワー・跳躍能力）」「ソフトボール投げ（巧緻性・投球能力）」では全国平均を下回り、特に「50m走」「ソフトボール投げ」では大きく下回りました。



また、体力合計点でも全国平均を下回りました。

女子は、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」が全国平均を上回りました。また、「20mシャトルラン」「50m走」「ソフトボール投げ」で全国平均を下回りました。



体力合計点については、全国平均を上回りました。

男女とも、柔軟性や敏捷性については申し分ありませんが、疾走能力や投球能力を伸ばしていく必要があると考えます。



〔運動習慣等〕

男女ともに全員が「体育の授業は楽しい」と感じており、運動やスポーツをすることを好む児童が大半を占めています。しかし、「学校の体育以外で運動やスポーツをしている時間」が、男子は多くの曜日で全国平均を上回っているものの、女子は全ての曜日で全国平均を下回っていました。

睡眠時間は、男女とも8時間以上とれている児童が半数を超えていますが、「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合は男女とも、全国平均を下回っています。

また、男女ともにおよそ半数が1日のうち3時間以上TV・ゲーム機・スマホなどの画面を見ており、視力低下などの健康面や、家庭学習時間の確保などの面で心配が残ります。



※これらの結果を踏まえ、体育の授業改善や児童の適切な運動習慣づくりに生かしてまいります。